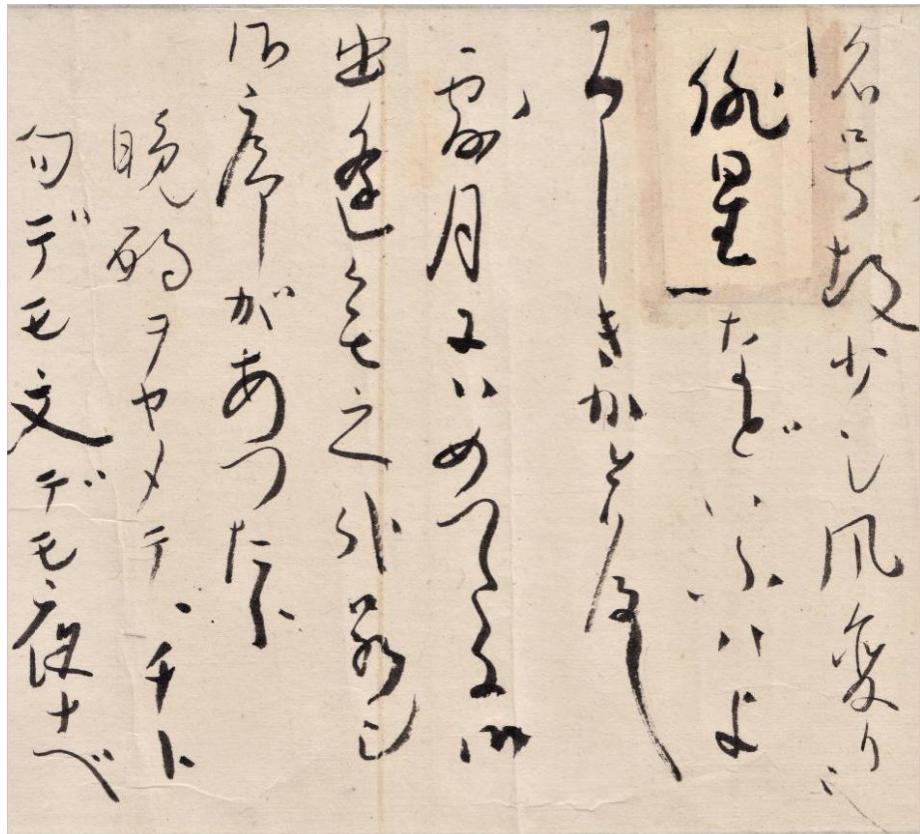




〔正岡子規直筆書簡〕



今年は明治百五十年。それに因（ちな）み、あきた文学資料館は夏目漱石と正岡子規という生誕百五十年の文豪に力を貸してもらっている。後期「正岡子規と秋田」展は、県内に存在するたくさんの子規直筆を集めた。明治三十二年一月八日に、東京根岸の子規庵で開催された句会稿「新年句集」は、ほとんどが子規の直筆で、しかも『子規全集』未収録のもの。明治三十年一月二十七日付け、島田五空宛書簡は、「俳星」命名のもの。明治三十四年七月二十七日付け、石井露月宛書簡には「小生一日一度位少量ノ麻痺剤（まひざい）を呑む それが唯一の楽二候」と書かれ、子規の窮状が告白されたもの。「子規葬（庵）保存会義捐（ぎえん）金募集記念」という印の押された子規の自筆稿は、県内では二点しか確認されていないもの。その他子規の自筆をはじめ、展示している資料は子規の生涯や業績、秋田の人々との交流を物語る貴重な資料である。ことは、俳句をつくつた人がいたなどという小さな話ではない。当時最先端のメディアを駆使し、命がけで俳諧を文学に昇華させた子規と、それに呼応した秋田人の話である。子規が亡くなつてから百五十年露月・五空は九十年。自筆資料を大切に保存してくれた方に深く感謝したい。

あきた文学資料館を、あきたの文学を記憶する装置あるいは記憶を呼び戻す装置にしたい。資料館は保管する器ではない。保管しているだけでは、忘れ去られるだけだ。そのために、資料の価値を伝え続ける方法を工夫しなければいけないと考える毎日である。

あきた文学資料館副館長 京極 雅幸



『サービス向上のための評価アンケート』結果

県立図書館では、今後の図書館サービスの向上に活かすため、利用者の皆様へ『サービス向上のための評価アンケート』を行いました。その結果をまとめたものの一部を紹介します。

■実施期間 平成29年7月12日(水)～18日(火)

■実施方法 閲覧室入口でのアンケート用紙配布 ■回答者数 365人

◆調査項目と回答結果◆

1 回答者についての質問

■性別

男性が58%、女性が42%でした。

■年齢

年代については、中高年、高齢者の利用が顕著であり、40代～70代で73.1%を占めました。

■住所

秋田市内の方が88.9%、その他11.1%でした。東京都他県外からの来館者も4名いました。

■利用目的 ※複数回答可

49.9%の方が自分の趣味や楽しみでの利用でした。また、個人や仕事上の調査研究での利用も多く、図書館本来の利用がされていることがわかりました。

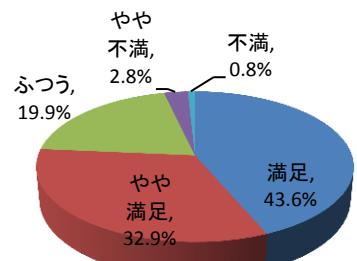
■利用頻度

貸出利用が多いためか、月に数度の来館が30.2%と最も多く、週に複数回利用の方も25.4%いました。

2 図書館サービスについての質問

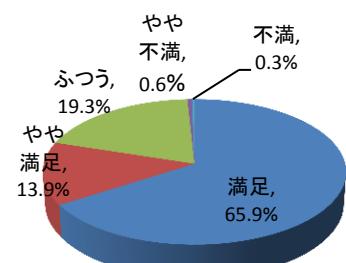
①本館が提供している資料(図書、雑誌等)について、満足していますか。

資料が充実しているとの評価を多くの方からいただきました。また多くの御意見もいただきました。資料選定の参考にさせていただきます。



②本館の職員の対応について、満足していますか。

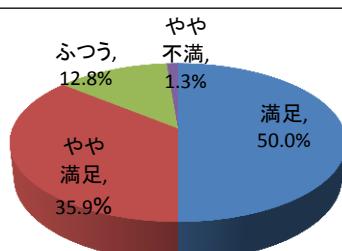
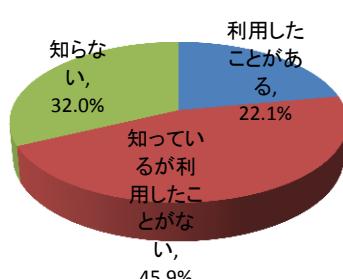
多くの方から、親切・丁寧・誠実という高い評価をいただきました。一方厳しいご指摘があつた点については、今後改善に取り組んでまいります。



③生活課題解決サービスについて、知っていますか。利用したことがありますか。

④利用した人は生活課題解決サービスについて、満足していますか。

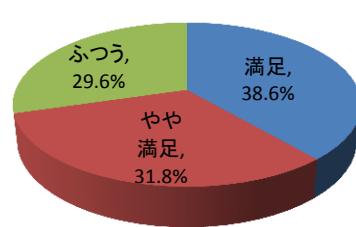
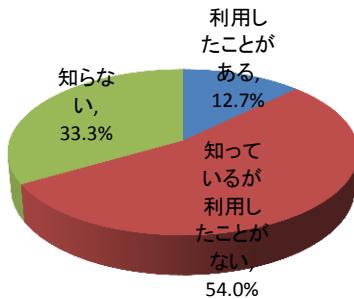
約7割の方が知っていますが、利用実績は多くありませんでした。利用された方からは、おおむね高い評価を受けております。今後も引き続き周知を図ってまいります。



⑤ビジネス支援サービスについて、知っていますか。利用したことがありますか。

⑥利用した人は、ビジネス支援サービスについて、満足していますか。

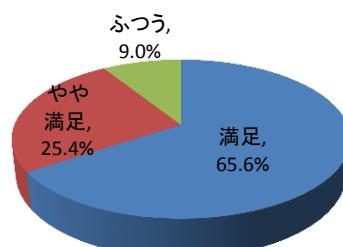
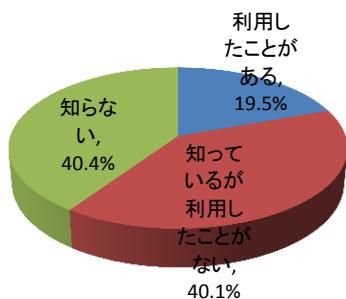
約15年のサービス実績がありますが、知らない方も33%おり、今後も引き続き周知を図り、利用数の増加を目指します。一方利用された方からは、高い評価を受けています。



⑦レファレンス・サービスについて、知っていますか。利用したことがありますか。

⑧利用した人は、レファレンス・サービスについて、満足していますか。

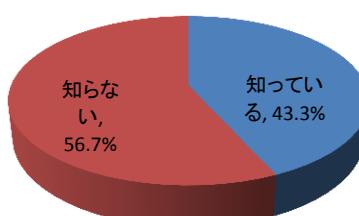
利用率が約20%と低いことが予想外でしたが、レファレンス・サービスは図書館の重要なサービスのため、今後も利用者の認識や利用の向上を目指します。満足度については、高い評価を受けています。



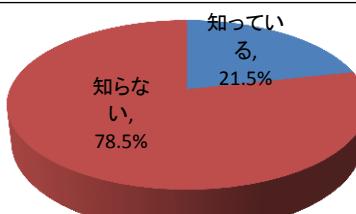
⑨県立図書館が、市町村立図書館等を支援する役割があることを知っていますか。

⑩県立図書館が、小中学校や高等学校、特別支援学校へ貸出を行っていることを知っていますか。

市町村立図書館等への支援業務は、カウンターサービスや郷土資料の収集と合わせ、本館の大きな役割の一つです。ここ10年ほど力を入れている学校貸出と合わせ、今後も県民の皆様に理解していただけるよう取り組んでまいります。



⑨市町村立図書館支援について

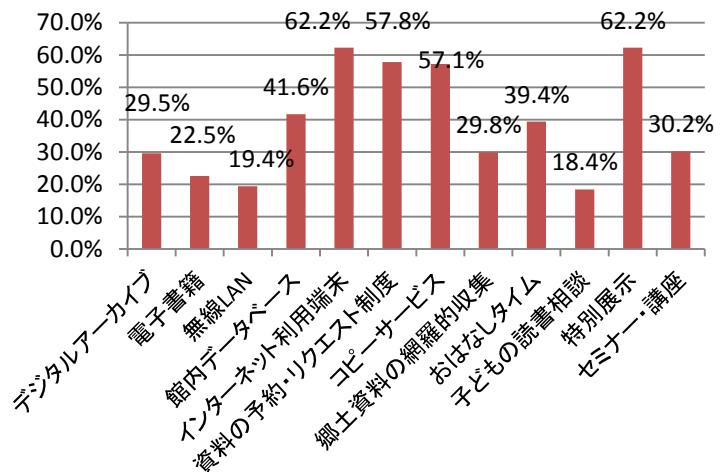


⑩学校支援について

⑪県立図書館では様々なサービスを行っていますが、それについて知っていますか。

※複数回答可

本館の諸サービスの認知度についての質問です。インターネット端末の利用と、特別展示の実施が最も知られていました。一方認知度が2割、3割に満たないサービスもあり、今後はこの実態を職員相互で共有し、それぞれのサービスの利用率向上を図ってまいります。



Pick up ~各班からの話題~

図書資料班

「郷土資料担当おすすめの本」



10月のおすすめ本

様々な郷土資料の中から毎月、「郷土資料担当おすすめの本」を紹介しています。10月は、大石清美さん／絵と文の『ごじょうめのわらしだ』を紹介しました。

昭和30年代の秋田の暮らしや子どもの遊びを、絵と方言で描いた「なつかしのごじょうめのわらしだ」が「広報ごじょうめ」誌上に長らく連載されています。その第1回から第240回までをまとめたものが本書です。この他にも懐かしい秋田の暮らしや遊びなどが描かれた資料を紹介しました。

情報班・サービス班

『さんフェア秋田2017』関連ミニ展示



大会キャッチフレーズは「産業交響曲(シンフォニー)～轟け！秋田の大地から～」

10月21日(土)と22日(日)に、秋田県民会館など秋田市内8カ所を会場として、『第27回全国産業教育フェア秋田大会(さんフェア秋田2017)』が開催されました。この大会は農業・工業・商業・水産などの産業教育を学ぶ高校生による

学習の成果の発表を通して、日本の産業教育の活性化や専門高校等の魅力の発信などを目的とした国内最大規模のイベントであり、会場では高校生

の作品発表や販売、来場者向けの体験コーナーなど多数の催し物が行われました。期間中は、会場にほど近い当館においても、ポスター・パンフレット、関連する内容の図書の展示を行い、大会をPRしました。

企画・広報班

平成29年(第41回) 秋田県図書館大会開催



森田盛行氏による基調講演

6月6日(火)、秋田県図書館大会が県生涯学習センターで開催されました。県内の市町村立図書館、公民館図書室、学校図書館等から130名が集まり、「図書館が変わる・地域が変わる—学校図書館とともに—」をテーマに、講演と事例発表が行われました。

始めに、公益社団法人全国学校図書館協議会理事長の森田盛行氏が「学校図書館と公共図書館の連携について」と題して基調講演を行い、連携の現状や課題について、様々な事例を交えお話しいただきました。続いて、能代市と横手市における市立図書館と学校図書館の連携について、事例発表がありました。意見交換では講師、発表者への質問も多く、関心の高さがうかがえるとともに、今後の各館における連携のあり方について考える貴重な機会となりました。

Event ~イベント・催し物のお知らせ~

■秋田をまなぶ講座シリーズIX

音楽セミナー「歌にみる秋田と世界」

【期日】12月10日(日)

【時間】午後1時30分から午後3時まで

【会場】県生涯学習センター 3階講堂

【出演者】

秋田大学名誉教授 佐々木久春

二期会会員 土崎 宏人

ピアノ伴奏 大山 英子